

談話室

コボル短信(3)*

西村 恕彦**

◎源データ項目とコントロール合計

報告書機能 (Report Writer) を用いてコントロール合計をとるときに、「合計をとる相手の項目は、明細報告集団中の SOURCE 句のオペランドとしても引用されていなければならない。」という奇妙な制約がある。たとえば、(1) 入力レコード中にある KINGAKU という項目の合計をとるのに、(2) コントロール脚書き集団中に GOOKEI SUM KINGAKU と書くためには、(3) 明細報告集団中に SOURCE KINGAKU という指定がなければならない、ということである。

この奇妙な制約の意義は、次のようなコーディングを想定することによって了解できる。

```
明細報告集団 A;      SOURCE G;
明細報告集団 B;      SOURCE G;
明細報告集団 C;      SOURCE G;
明細報告集団 D;
コントロール脚書き集団; SUM G;
```

としたときに、コントロール合計への G の加算は、次の各命令の実行時に行なわれる。

```
GENERATE A;      加算する。
GENERATE B;      加算する。
GENERATE C;      加算する。
GENERATE D;      加算しない。
```

この場合に、明細報告集団 A の GENERATE のときにだけ加算したいものとすれば、

```
コントロール脚書き集団; SUM G UPON A;
```

と書いておけばよい。

◎行送り後の印刷

行送りについてまちがえないようにという注意は、

* COBOL News and Olds (3), by Hirohiko Nisimura (MITI)

** 通商産業省工業技術院

もう何年も前からいわれていて、もはや行き渡っていると思っていたのだが、最近また何か所かで逆の説明をしたマニュアルなどをみかけるので、重ねて注意しておく。

```
WRITE OUT-RECORD AFTER ADVANCING N LINES;
```

と書くと、*N* 行だけ行送りしたあとで *OUT-RECORD* を印刷するのである。AFTER というのは行送り後の印刷なのである。行送り前の印刷ではない！とくにメーカーの担当者の責任は重大である。

ところでこのような行送りの指定を付けずに書出しの命令 (WRITE) を行なうと、自動的に 1 行を送ると決めてある。しかし 1 行送ってから印刷するのとその逆なのかは規定してなく、オペレーション上の共通性がないので、日本からコダシルにあてて、

```
WRITE O-RECORD; は
WRITE O-RECORD AFTER ADVANCING 1 LINES;
```

とみなすという提案を出した。ただしこの改定はもう一つの「印刷機ファイルを OPEN すると、印刷用紙は現在のページの最後の行位置にセットされる。」という提案と組にしなければ意味がない。

これらの提案ではぐあいのわるい金物が、あるいはあるかもしれない。

◎ COBOL 1965 年版の訂正

訳本に誤りがあったので、次の 2 点を訂正する。

(1) 190 ページ、RENAMES の文法規則 3. 「また、これを……の名前で修飾することもできない。」とあるのを「データ名-1 は 01 レベルや FD 項の名前で修飾することしかできない。」と直す。

(2) 211 ページ、VALUE の一般規則 2.d. 「項目に……機能は無視される。」とあるのを「PICTURE 句の編集用文字や BLANK 句は項目に初期値を与えるわけではない。」と直す。ただしこう訂正しても、

編集項目にたいする初期値の取め方は明確には規定されていないと思われる。この点について、すでに日本からコダシルにあてて提案が出してある。

ほかにも誤植や疑問点がありましたら、ご通知下さい。この第1項の訂正は訳者の1人、吉村鉄太郎氏(管理工学研究所)によります。

〔宿題〕

◎件数のコントロール合計

先の報告書機能の例で、明細報告集団Dの件数のコントロール合計をとるにはどうすればよいか。

◎複数の答

次のそれぞれの命令の意味は何か。その動作は厳密に規定されているか。あなたのコンパイラではどうなっているか。

```
MOVE A TO B (J) I C (J);
MOVE D (J) TO E (J) J F (J);
ADD R R TO R R;
ADD S (K) TO S (K) K T (K);
COMPUTE X (N) N X (N) = X (N) + 1.
```

(昭和43年12月10日受付)

コボル短信(1)宿題答案

大 駒 誠 一*

西村恕彦氏のコボル短信(1)(1968年11月号)の宿題が非常に難しく、その解答がコボル短信(2)(1969年1月号)にのるものと期待していたが、でなかった。その答を考えてみた。受取り側と送出し側項目の一部がオーバーラップしているときと、可変長項目の転送はあいまいさがあってよくわからないので考えてない。以下データディビジョンだけを示す。

1) 空白になる例 (R→C→R)

A案 05 RESEARCH PICTURE X(10)
JUST RIGHT.
05 COMMITTEE PICTURE X(5).

B案 05 RESEARCH PICTURE X(10).
05 COMMITTEE PICTURE X(5)
JUST RIGHT.

C案 05 RESEARCH PICTURE B(5)X(5).

05 COMMITTEE PICTURE X(5).

2) 10倍になる例 (A→B→A)

D案 06 A PICTURE 9999.
06 B PICTURE 9990.
E案 06 A PICTURE 9990.
06 B PICTURE 9999.

3) 1/100倍になる例 (C→D→C)

F案 07 C PICTURE 9999.
07 D PICTURE XX.
G案 07 C PICTURE V9999.
07 D PICTURE V0099.
H案 07 C PICTURE V009999.
07 D PICTURE V999999.

(昭和44年2月4日受付)

* 慶応義塾大学工学部管理工学科